

01

中野区弥生町三丁目プロジェクト

『空き地の新たな活用法の検討』

■活動地域

東京都中野区弥生町三丁目周辺地区

■活動期間

2016年6月～継続中

■活動体制

工学院大学 野澤研究室 / UR 都市機構

■活動キーワード

木造密集市街地 / 公共的空間活用 / 商店街活性化 / 空き地活用 / 暫定利用

■2020年度活動メンバー

M2: 浅川遥友

M1: 松村叡英

B4: 芹澤啓昭、畠山陸、藤井知香、
柳澤加奈、奥津友理香B3: 渥美翔介、眞屋貴行、焼谷卓磨、
山根拳人、清水蓮平、桑嶋有紀、
佐藤まなみ、猿田妃花

対象地の概要



弥生町三丁目周辺地区は、西新宿から約 2km 圏内に位置している。都心立地にもかかわらず、閑静な住宅地であり、下町情緒に溢れ、ドラマや映画のロケ地としても多く利用される川島商店街がある。また、商店会を中心に地域コミュニティ活動が盛んな地域でもある。

しかし、木造住宅の密集する市街地は狭い道路や行き止まり道路棟が多く、災害危険性が高い。また、商店街は高齢化によるシャッター店舗の増加の傾向が見られる等の問題を抱えている。

活動経緯

本弥生町三丁目周辺の防災整備事業を行う際に UR 都市機構が取得した従前居住者用の代替地（現材は不燃化促進用地として防災フェンスが設置されている）を対象に空間活用を行ってきた。

これまでの活動は空き地空間の利活用を行ってきたが、安全上の理由から敷地の前面の利用にへんこうになった。今年度からは「まちなか黑板」を敷地の前面に設置し、自由な利用と学生側が仕掛ける複数の小さなアクションを行っている。



これまでの活動

初年度は対象敷地の特性を把握するための現地調査や事例研究を行い、2017年より実践的に空き地活用を始めた。2020年からは敷地の前面利用としてまちなか黑板を設置した。

2016

対象地の特性を把握するための現地調査や、空地の活用方法を学習するための事例研究などを行った。

2017

ハロウィンや東京行灯祭など商店街主催のイベントへの協力と、それに合わせた自主的な用地活用モデル企画を行った。

2018

6月にらくがきあそびを行った。その後安全上の理由から敷地内が使えなくなったため、UR都市機構と敷地の前面フェンス棟を利用した活用案を検討した。

2019

黑板を設置することで見出される地域のさらなる可能性の発見のために12月に現地調査を行った。年度末の3月に黑板が竣工し、活動を開始した。



黒板設置作業の様子



アクティビティ調査の様子



アーティストによる黒板アート



地元の子と一緒に作業する風景

今年度の活動内容

今年度は新たな活動として川島商店街に「まちなか黒板」を設置した。3月に竣工し、1年間を目安に月2回程度の黒板の更新を行おうとしたが、今年度はコロナ禍の影響で思うような活動ができなかった。そんな中でも川島商店街だけでなく弥生町全体を活気づけるためにオンラインでの学生間のミーティングやUR都市機構との打ち合わせ、商店会会合に出席するなどでき

る限りの活動を行った。会合には3回ほど出席し、学生側が今後黒板をどのように使っていくか黒板をどのようなものにしていきたいか等を伝えた。行った活動に対してフィードバックを頂くこともできた。そのほかの活動として事例調査やポスターの作成、まちなか黒板の更新といった黒板の活用方法や地域の方々に知ってもらうためにSNSを用いた周知を行った。

まちなか黒板

UR都市機構が所有する土地でこれまで空き地空間としての活用などを行ってきたが、今年度は敷地の前面利用のみになった。暫定的な新たな土地の活用としてまちなか黒板を設置し、竣工後、春をテーマに黒板に描いた木に地域の方々に花を描いてもらい満開にするオープニングイベントを行った。8月には弥生町でアーティスト活動を行っている知花さんに黒板アートを描いていただいた。また、商店街の店舗にインタビューを行い、黒板にその情報を書くなどコロナ禍で人が集まれない状況の中でも地域の方々に黒板を知ってもらうための活動を行った。11月からは軸を定めるために「タクティカルアーバニズムの実践的研究」と題して活動を行っている。12月には商店街の電気さんの協力を得ながら青空ミーティングを開催して、弥生町の課題や資源の抽出方法等を検討した。



店舗情報の掲載



お題投稿アート



青空ミーティング

来年度の活動予定

来年度からは「タクティカルアーバニズムの実践的研究」を軸としてアクションガイドラインを製作しようと考えている。小さなアクションを何度も行い、いくつもの事例をまとめあげる。また、今使用している土地だけではなく別の場所でも使えるようなものにする。商店会の方々の意見も取り入れながら、冊子を見てまちづくりの参考にしてもらえるように作成していく。今年度コロナ禍でできなかった地域の人をもっとまきこんだイベント（東京行灯祭やハロウィンも含め）を行っていきたくと考えている。

